島本　涼夏（ピアノ）

ピアノソナタ第3番 Op.58 ロ短調 第1楽章 ／F.ショパン

【プロフィール】

広島県広島市出身。4歳からピアノを始める。広島国際学院高等学校を卒業後、音楽特別奨学生として広島文化学園大学学芸学部音楽学科1年に在学中。第15回ベーテン音楽コンクール全国大会大学・院生A部門入選。中学高校で吹奏楽部に所属し、打楽器全般・ハープ・ピアノを担当。これまでに打楽器を小川裕雅氏に、ピアノを北野里美、柳岡奈緒美、山根慶丸、多田愉可の各氏に師事。

【曲目解説】

このピアノソナタは1844年に作曲された。ショパンのピアノソナタ全3曲のうち3曲目にあたり、円熟期の最大傑作とも言われている。今回演奏する第１楽章(Allegro maestoso)はソナタ形式になっており、決然とした空気を感じさせる第1主題と、「ピアノの詩人」とも言われるショパンらしい優美な第2主題を持つ。この第1主題はモチーフとして何度も転調し登場する。

阿保　鈴夏（ピアノ）

ピアノソナタ第17番「テンペスト」ニ短調Op.31-2第3楽章 ／L.v.ベートーヴェン

【プロフィール】

広島県立庄原格致高等学校卒業。広島県庄原市出身。6歳からピアノを始める。第8回ベーテン音楽コンクール課題曲コース中国地区大会銀賞、第1回ヤマハジュニアピアノコンクール予選最優秀賞及び西中国大会出場、第13回ベーテン音楽コンクール自由曲コース全国大会入選。その他、ヨシオカ楽器主催のハイクラスコンサートにて小学5年生から高校3年生まで毎年演奏する。これまでに山田寿枝、安部祥子、末永雅子の各氏に師事。広島文化学園大学学芸学部音楽学科1年に在学中。

【曲目解説】

この曲は1802年に作曲された。表題はもとから付いていたものではなく、ベートーヴェンの弟子であるアントン・シンドラーがこの曲の解釈について尋ねたところ、「シェイクスピアの『テンペスト(日本語で嵐を意味する)』を読め」と言ったということに由来する。今回演奏する第3楽章は、熱気を持ってほとんど休むことなく動き回る無窮動風の音楽であり、馬車の走行から着想を得たという逸話がツェルニーによって伝えられている。

北尾咲央梨（サクソフォン）

サクソフォン協奏曲　第1楽章、第2楽章／P.クレストン

高木 見早（ピアノ）

【プロフィール】

安田女子高等学校出身。4才からピアノ、高校1年生冬よりサクソフォンを始める。ジュニアウインドオーケストラ広島に1期生、2期生として所属し、プロの音楽家より指導を受けながら吹奏楽を始め合唱や指揮法、アンサンブルなどを学ぶ。現在、サクソフォンを宮田麻美氏に師事。広島文化学園大学学芸学部音楽学科1年に在学中。

【曲目解説】

作曲者のポール・クレストン(1906-1985)は、アメリカの作曲家であり、オルガニストとして活躍した。このサクソフォン協奏曲は全3つの楽章で構成され、今回演奏する1楽章はEnergetic(エネルギッシュな)、2楽章はMeditative(瞑想的な)と楽譜に表記されている。曲全体を通して、メロディの表情が様々であり、特徴的なリズムを味わえる。

片岡　咲華（サクソフォン）

アルトサクソフォーンのための「バラード」／H.トマジ

静間 絵里奈（ピアノ）

【プロフィール】

就実高等学校出身。サクソフォンを上田啓二氏に師事。広島文化学園大学学芸学部音楽学科1年に在学中。

【曲目解説】

タイトルにある「バラード」とは、もともとは詩の一形式を表わす言葉でしたが、18世紀以後は、物語の内容を持った器楽曲のタイトルにつけられるようになりました。このトマジ作曲の「バラード」も楽譜にはS.マラールの詩が添えられています。マラールの詩の内容はとても叙情的なもので、曰く「ためらいがちに鳴り響くサクソフォーン」がひとりの道化師を苦悩と絶望から立ち直らせるものとして登場します。

岩瀬　楓（トロンボーン）

Ballade／E.ボザ

増野 雅美（ピアノ）

【プロフィール】

福岡県 精華女子高等学校出身。トロンボーンを小林泰一郎氏に師事。広島文化学園大学学芸学部音楽学科２年に在学中。

【曲目解説】

作曲者のボザは非常に多彩家で、弦楽器だけに限らず、管楽器にもとても詳しく、多くの作品を残しています。曲名の通りバラード調のとても美しい旋律で始まります。クラシックな曲調に代わったり、スライドを使ったグリッサンドなど、トロンボーンの表現を最大限に引き出せる曲となっています。

髙岡　鈴渚（マリンバ）

マリンバのための2章 より／田中利光

【プロフィール】

山口県立岩国工業高校出身。マリンバを山下やよい氏に師事、広島文化学園大学にて山澤洋之氏に師事。岩国市ソロアンサンブルコンテストソロ、アンサンブル共に金賞受賞。現在、広島文化学園大学学芸学部音楽学科２年に在学中。

【曲目解説】

2楽章から成るマリンバ独奏曲。1965年の作曲以来、世界中の打楽器奏者により幅広く演奏され、また各種コンクールの課題曲にも採用されてきた、マリンバ奏者の必須レパートリーです。本日は第二楽章をお届け致します。

島田陽奈乃（トランペット）

Sonata pour Cornet et Piano／T.ハンセン

米原 ゆかり（ピアノ）

【プロフィール】

広島市出身。12歳よりトランペットを始める。広島県立広島商業高等学校を卒業後、広島文化学園大学学芸学部音楽学科に入学。ジュニアウインドオーケストラ広島第1期生。これまでに、トランペットを松﨑祐一、白石実、村上俊也の各氏に師事。

【曲目解説】

ハンセンの出身であるデンマークは、この曲が作曲された頃、あらゆる文化が発展した黄金時代を迎えていた。その要素が各所に見られる。第1楽章は華やかなピアノと共に始まる。第2楽章は、どこか重さ・息苦しさを感じながらも感情の高ぶりのようなものが見受けられる。第3楽章はトランペットの輝かしさが活きるメロディーとなっている。技術的な難しさは求められないが、トランペットの持ち味が十分に楽しめる曲である。

大知　千紗（ユーフォニアム）※当日体調不良のため出演なし

The Green Hill／B.アッペルモント

増野 雅美（ピアノ）

【プロフィール】

就実高等学校出身。ユーフォニアムを正田律子氏に師事。広島文化学園大学学芸学部音楽学科２年に在学中。

【曲目解説】

B.アッペルモントはベルギーの作曲家。吹奏楽やブラスバンドの作品を多く手掛けており日本でも度々演奏されている。本日演奏する「グリーンヒル」はスイスのユーフォニアム奏者Erich schmidliの委嘱作品で、ケルト音楽からインスピレーションを受けており、有名な「リヴァーダンス」に代表されるアイリッシュダンスのリズムとフィーリングを盛り込んだ曲になっている。前半の叙情的なメロディーと後半のダンスを踊るようなリズミカルなメロディーが特徴。

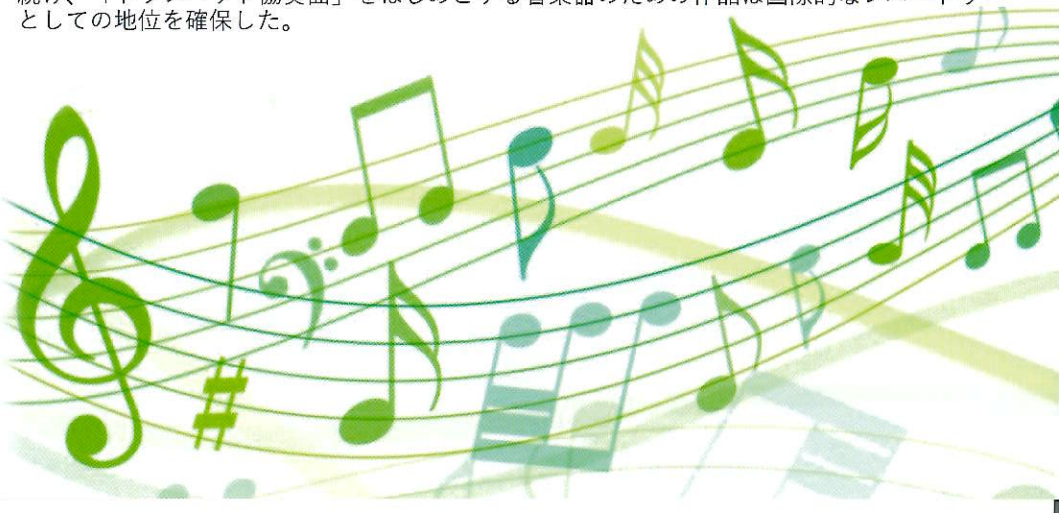
川口莉乃香（トランペット）

トランペット協奏曲／A.アルチュニアン

梅田 なつみ（ピアノ）

【プロフィール】

出雲北陵高等学校出身。小学3年生冬よりトランペットを始める。2020年、島根県高等学校音楽コンクール金管部門第1位。現在トランペットを白石実氏に師事。広島文化学園大学学芸学部音楽学科２年に在学中。

【曲目解説】

この曲は、A.アルチュニアンがソビエトのトランペット奏者ティモフェイ・ドワシチェルのために1949年にかけて作曲したものである。アルメニアの民族音楽を取り入れた作品を書き続け、「トランペット協奏曲」をはじめとする管楽器のための作品は国際的なレパートリーとしての地位を確保した。